

あけましておめでとう

広報

のぼり

- あけましておめでとうございます
- ◎ 新年のごあいさつ 市長・市議会議員
 - ◎ 四年生まれ今年の抱負……………2・3 P
 - 市民の総意で築く郷土登別 着実に進む総合基本構想……………4～7 P
 - 随想 幸福感の再認識 森 義紀氏……………8 P
 - 郷土史探訪録 登別地方の昔のお正月……………9 P
 - 昭和54年度 水道事業会計決算状況……………10 P

No. 317 ●昭和56年1月1日発行 ●発行/北海道登別市●編集/総務部公聴広報課●印刷/中西印刷

限りない未来にかける



1981 1.1~15 合併号

—64国体北海道大会を目指して—
新井真理子さん(右)、石井みゆきさん(左) —西陵中学校—

とうございます

活気あふれる郷土を めざして



登別市長 中浜 元三郎

昭和五十六年の輝かしい新春を迎え、市民の皆様
謹んで新年のごあいさつを申し上げます。

昨年は市制施行十周年記念を盛大に終えることが
でき、今や人口五万六千人を数える北海道内三十二
市の中堅に位置するまでに伸展をいたしました。しか
し、数年前からの経済不況は室蘭圏経済を景気停滞
のうずきに巻き込み、いまだにその混乱から脱し得る
状況にあります。市民経済の維持向上、並びに地
方財政確立のためには、本市の構造の改編見直しを
し、不況に強い自立型都市への脱皮をしなければな
らないと考えます。

登別市将来の都市像構想の確立を図るべく、「観光
と工業と学園都市建設」を三本の柱とした、多面的
性格を備えた複合都市建設」を目標に登別市総合基
本構想が策定され、市民生活の向上、充実を最重要
とし、市民のだれもが住むことに喜びを感じる魅力
的な「ふるさと登別」を創出するために、長期的
視野に立った都市基盤づくり、二、健康で快適な住
みよい生活都市づくり、三、安心して暮らせる社会福
祉都市づくり、四、豊かな人間性を育てる教育文化
都市づくり、五、市の発展を支える産業基盤づくり
の五つの柱を中心に施策項目を体系化し、施策の展
開を明らかにして本市がさらに輝かしい飛躍発展を遂
げるよう一層の努力を重ねることが、私共現代に生
きる者の使命であると思っております。

学園都市構想につきましては、一昨年来強力に誘
致運動を起し、議会の協力を得た中で、日本工学院
北海道専門学校が昨年十一月に起工され、五十七年
四月に開校の運びとなっております。しかしながら
これが完全に機能を発揮し本来の目的を達成するに
は、長い年月とたゆまざる努力が必要であると存じ
ます。

酉年生まれ今年の抱負

今年はずり(酉)年です。
今新春号では、エトにあたる方々に登場し
ていただき、昨年のことや今年の抱負を語っ
ていただきました。
新しい年を迎え、みなさんにとってよい年
でありますように。

一日、一日を 本当に楽しいものになりたい

松田徳之助さん(明治42
年5月10日生/無職・常
盤町3-18-4
一日に一度は絵筆を持つ——私
には欠かせない日課です。
昭和四十年、室蘭美術公募展に
入選したのが病みつきとなり、抽

象画や当時住んでいた室蘭市内の
景勝地などを描いていました。
昨年は、登別美術協会主催の公
募展で文化協会長賞を受賞、光栄
に思っています。
私の絵は独学ですから、自分の
思うままに絵筆を走らせている程
度で、年に一度、家内や孫達と一



結に行くスケッチ旅行を楽
しみにしています。
今は一月末に開かれる市
内公募展を目指して、真っ
赤な鯛と取り組んだ日本製
鯛所勤務時代を思い出しな
がら「熱延」五十号作を手
掛けています。
絵画は神経を集中させる
ことができますので、気分
転換にもなりますし、若さ
をよみがえらす秘伝……と
言うことになるかもしれま
せんね。
現在は、常盤町の緑寿会
老人クラブ会長を務めるか
たわら老人大学委員も引
き受けしており、今年も多
岐な一年となりそうです。



相原雅子さん(昭和32年
9月11日生/恵愛病院・
登別本町2-29

思い出の年になりそうです

いよいよ二十四歳、今年
は一生の思い出になる結婚
式を三月に控え、これから
忙しくなりそうです。
結婚後は親元を離れ恵庭
市に住むことになりましたの
で、ちょっぴり不安です。
高校、大学そして就職し
てからもマンドリン、フォ
ークソングと歌ってばかり
……今になってお花や着付
を習っていますが、少々遅
すぎたようです。
でも、大好きな歌を続け
ておられ、幸せだったと思
っています。
これからは両親にも安心
して頂けるような家庭を築
いていきたいですね。

あげましておめで

市民憲章の崇高な精神のもとで、相互理解と信頼とによって結ばれるならば、必ずや明るく平和で活気溢れる郷土登別が建設されるものと確信いたします。どうか、本年もより一層のご支援、ご協力をお願いすると共に昭和五十六年が市民の皆様にとりまして、幸せな年でありますようお願い申し、新年のごあいさつといたします。

最大限の行政効果へ努力

登別市議会議長室 久吉

輝かしい昭和五十六年の新春を迎えるに当たり、市議会を代表して市民の皆様につきしんでごあいさつを申し上げます。

昨年を振り返りますと、皆様方におかれましては打ち続くインフレと不況により、市民生活は極度の圧迫を受け、さらには歴史的ともいえる集中豪雨による大災害にあわれ、多事多難の一年ではなかったかと推察しております。

しかしこのような情勢の中で、市民の皆様方の長年の念願でありました老人福祉センターの建設をはじめ、郷土資料館の建設など、福祉、教育の充実が図られ、さらには日本電子工学院の誘致も決定し、学園都市造りの基盤をなし、道内の中堅都市として着実に躍進しておりますことは、まことに喜ばしい限りであります。

市内外をとりまく諸問題は、前途に横たわっており、あまりにも厳しい財政状況の中で、地方自治体の努力にまつ課題は枚挙にいとまがありません。

私ども議会人といしましては、これらの問題をとらえ、政府、国会に強力な実行運動を展開し、登別市発展につながる重要課題の解消をめざすと共に、最大限の行政効果をあげるため、執行機関と相協調して一層の努力をすべき年であると考えております。

どうか本年もより一層の御支援御協力をお願い申し上げます。昭和五十六年が市民の皆様にとりまして幸せな年であります様お祈り申し上げまして新年のごあいさつといたします。



行動する年にしたい

片岡 実さん (昭和32年
11月1日生 / 第1滝本館
登別温泉町55)

今年は、まず車の免許を取りたい、そしてスポーツやサークル活動にも積極的に参加していきたいですね。

昨年十一月に行なわれた、室蘭登別、伊達市合同の国内派遣団十五名の一人として参加し、貴重な体験ができて本当に良かったと思っています。

研修では、東京都中野区にある全国勤労青少年会館や東村山市の日本一の設備を誇る公民館を見学したほか、渋谷区青年団との交流会が行なわれました。

ここでは、「青年活動は何を目的に行なうべきか」「地域に青年活動の輪を広げるには」といった問題について、真剣な話し合いが行なわれ、青年団活動の経験がない私には、今でも新鮮な感動として残っています。

職場とはまた異なる、同年代の人達との触れ合いを大切に、今年は行動する年にしたいと思っています。



岸谷敏子さん (昭和20年
3月22日生 / 主婦・富士
町6-36-3)

バドミントンが 楽しみです。

バドミントンを始めて三年——スリムな体を少しも太めにと、総合体育館で開かれた婦人スポーツ教室に参加したので嬉しかったです。

昨年は、第一回ヨネックス杯Cクラスに水見さんとペアを組んで出場。初めての優勝を経験して、すっかり感激、今ではバドミントンのとりこになっています。週二回のサークルが楽しく、ストレス解消と健康づくりが大きな魅力ですね。今年の目標……というより、あせらずマイペースで長く続けたいと思っています。

優勝を目指します



板久直子さん (昭和44年
6月22日生 / 鷺別小5年
生)

昨年9月の校内マラソン大会で1位になったのがとてもうれしかった。今は毎日5キロぐらい走っています。

今年の目標は、校内マラソンはもちろん、小体連の1,500mで優勝することです。



柳谷一志くん (昭和44年
10月21日生 / 鷺別小5年
生)

野球が大好きです。今年は6年生になりますので、ピッチャーとして小体連野球大会に出て、是非優勝したい。今は速球しか投げられませんが、カーブやシュートも覚えたいと思っています。夢は……甲子園に出場することです。

別登土郷く築で意

55年度
62年度

着実に進む総合基本構想

登別市の効果ある都市づくりの方向を明らかにし、混迷する八十年に対応するため、市では昨年六月、市民参加のもとに総合基本構想および基本計画を策定しました。

この基本構想は、昭和五十五年度を初年度とし、昭和六十二年度を目標年度とする八カ年計画で、すでに主要事業が進められています。

今後この計画の推進に幾多の困難が予想されますが、国、道をはじめ関係機関のご支援と、市民のみなさんのご理解、

ご協力をいただき、施策の実現に努力していきます。

今号では、これらの施策の中で都市基盤づくりには、欠かせない公共下水道、基本構想の柱でもあります学園都市構想の実現のため誘致された日本工学院北海道専門学校の内容、お年寄りの憩いの場として老人福祉センターなど着手された事業の主なものを紹介します。

このほかに、生活に密着した環境整備も着実に進められています。

56年度 着工へ 公共下水道建設

豊かで調和のある自然を保ち、快適で文化的な生活環境を築くため、公共下水道の整備は、総合計画の主要施策として位置づけられています。

市では、現在建設省に対し第一期公共下水道整備計画の認可事務を進めており、来年度から着工の予定です。

下水道整備の方向は、国や道の方針の中にも、人口集中地域から実施する事が経済効果の面で望ましいとされており、当市においても観別地区から整備を進めていく方針です。

第一期整備計画（昭和五十六年

「六十二年」では、中央町一丁目、富士町一丁目七丁目、新川町の全域を整備地域とし、一万七百人の下水を処理する計画で、処理場施設を建設するほか、汚水管三十五基、雨水管一基が布設されます。

これに要する総事業費は八十五億二千四百万円にのぼり、現行制度によると、下水道の建設事業は国の補助金、市債によって財源をまかなうこととなります。

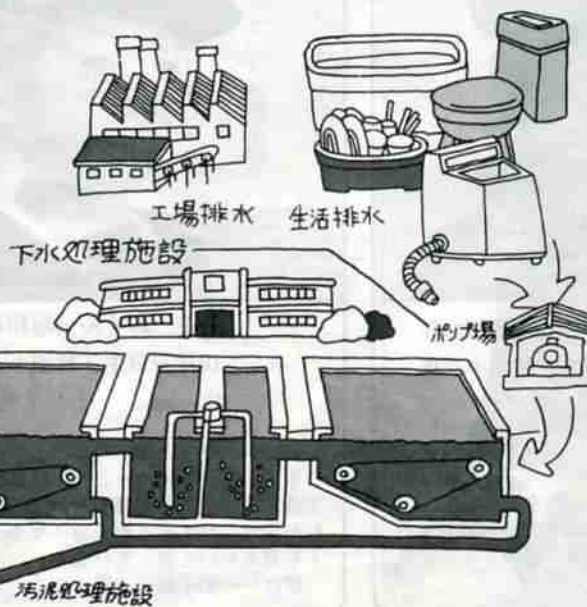
しかし、国の補助率が低く、しかも受益者負担制度を原則としていますので、財源の確保が重要な課題となっています。

受益者負担制度は、公共下水道の整備は長期にわたるため、早期に利便性、快適性が向上する受益者に事業費の内一定割合の負担を求めらるもので、負担の公平という観点から各都市で採用され、下水道の推進に重要な役割を果しています。

このように、公共下水道の整備には、長い年月と莫大な費用を必要としますが、下水道は近代都市に不可欠の要素であり、河川や海の汚染防止からも積極的に推進しなければなりません。市民のみなさんの深いご理解とご協力をお願いいたします。

下水道のしくみ

下水道は下水管、ポンプ場、下水処理場の三つに分けられます。下水管に入った汚水や雨水は下水処理場できれいにされます。自然に下水の流れない所ではポンプでくみ上げて流すしくみになっています。

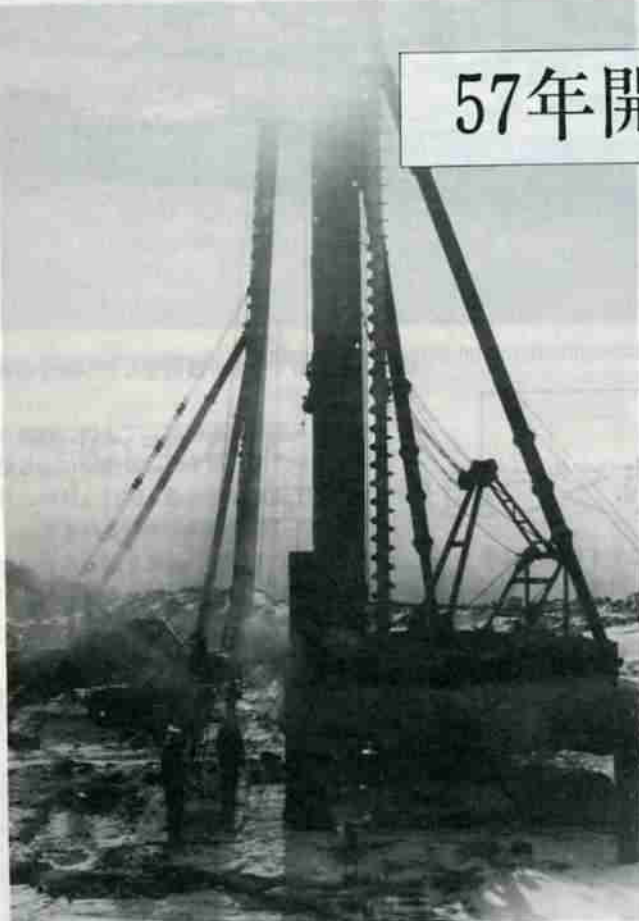




市民の総

57年開校に向けて着々と

日本工学院北海道専門学校



学園都市づくりへの第一陣、日本工学院北海道専門学校の建設工事が昨年十一月に着工され、現在急ピッチで工事が進められています。

同校は、札内町一八四番地、一八五番地の一万九千七百二十五平方メートルの敷地に、三階建て本部棟、四階建て校舎などを今年十月末までに建設し、昭和五十七年四月開校に備えることになっています。

開校時には、校長を含め教職員四十名（内兼任二十名）、事務職員、学校医など十四名の合わせて五十四名の体制で学校運営にあたることになっています。

本校の日本電子工学院は、東京都大田区西浦田にあり、電子工学、情報処理、電気工学科など十六科目をそなえた工業専門課程とデザイン科、放送制作芸術科、演劇科など六科目の芸術専門課程が設置されている在籍生徒数八千人を超える工業技術系の専門学校です。

昭和二十二年に創立し、以来三十三年の校歴をもっています。教授、講師陣が二百六十名、事務職員百二十五名の構成で、取得できる主な技術資格は、各級無線通信士、情報処理技術者、電気主任技術者など十三の資格があり、これまでの総卒業生は約六万人となっています。

登別市に設置する学科と定員は次のとおりです。

○電子工学科：百人 ○情報処理科：三百人 ○電気技術科：七十人 ○建築工学科：百人（各学科ともに二年制）合計五百七十名。

同校の開校は、教育文化全体の振興となるばかりでなく、産業振興の活力となるため、その開校が待ち望まれています。

下水道と私たちの生活

■生活環境が改善されます。

下水道ができると台所や風呂場や洗たくの水は、そのまま流せます。工場の水も有害物を(除害施設で)除けば、下水管に流せます。ドブや水たまりがなくなり、カやハエもいなくなり、いやな臭いもなくなります。

■水洗便所が使えます。

くみ取り便所が、きれいな水洗便所になります。バキュームカーもいらなくなり、いやな臭いのしない、清潔なまちになります。



■川や海がきれいになります。

きれいな水が川や海や湖沼に流れこまなくなり、きれいな自然がとりもどせます。魚や小鳥の住むゆたかな自然が守れます。

■浸水が防げます。

大雨が降っても、どんどん下水管に吸いこまれます。台風や梅雨どきも安心です。浸水の心配がなくなり、家などが水につかることもなくなります。

■水不足にも役立ちます。

下水をさらにきれいにすると、もう一度、水洗便所や工場の水に使えます。大切な水道の水の節約になり、水不足にも役立ちます。



お宅の空室を、下宿・間貸に活用しませんか。

学園都市を目ざし、誘致が行なわれてきた日本工学院北海道専門学校の昭和57年4月開校が決定し、現在、校舎の建築が進められています。

入学定員は、五七〇名で、このうち半数以上は寮・下宿と想定さ

れることから、商工会議所では受け入れ準備を進めています。大部分を全く新たな経営に頼らなければなりません。

お子さんの独立などで部屋を下宿、間貸に希望する方、また、新しく寮等の建築を希望する方は、詳細についてご相談したいので、連絡くださいようお願いします。

◎連絡先 登別商工会議所(電話

5局4111)



この春オープン

お年寄りの殿堂・老人福祉センター

4月オープン予定の老人福祉センターは、富士町7丁目11番地に総工費2億千4百40万円で建設工事が進められています。

同センターは、お年寄りの交流と健康増進を図るとともに、老人福祉の総合的な施設と

して活用されます。

建物は、お年寄りが利用しやすいように平家建ての約千平方メートル内部には3百42平方メートルの集会室をはじめ教養娯楽室、各種相談室、機能回復訓練室、男女別浴室のほか体の不自

由な人も入浴できる介護浴室などが設けられます。

また、老人相談員を配置して生活、就労など各種相談や、保健婦または看護婦による健康相談、血圧測定などを週1回行うほか、月2回医師による健康相談が実施されます。

このほか、お年寄りの便宜を図るため、市内各地から同センターに直行する専用バスが運行されます。



夢ひろがる

総合公園

健康で快適な住みよい生活都市づくりをめざす総合基本構想の中で、市民だれもが利用できる体力づくり・レクリエーション広場として、幌別ダム下に総合公園の建設を計画しています。

昨年十一月に都市計画公園として指定され、五十六年度以降に着工するよう、早期実現をめざしています。計画敷地は、幌別市街地から北西に約二、三、幌別ダム下の面積約

九万四千平方メートルで、全体計画の中の一つとして、現在、郷土資料館の建設が進められています。

また、総合公園内には次のような施設が計画されています。

- ▽野球場：一面
- ▽テニスコート：二面
- ▽中心広場：各施設への移動の中心地として休憩設備を配置
- ▽プレイコーナー：児童の遊び場として遊具を設置
- ▽芝生広場：軽スポーツやピクニックなどに利用されるほか、サッカーなどのフィールドスポーツの広場
- ▽野鳥の森・冒険の森：園路にそって木製遊具、レストコーナーなどを配置するほか、自然の緑地帯とする
- ▽ボート池：ボート遊びを中心に、水遊びの場とし、休憩広場、管理棟を設置
- ▽修景水路：資料館からボート池まで、水深二十センチ程度の小川を設け憩いの場とする。

これらの施設は、各年度に分けて建設して行き、総合的な完成は昭和六十一年頃の見込みです。このほか、市民の森、幌別ダム周辺を整備するとともに子供の園を設置し、さらに幌別川沿道にサイクリングロードを設置するなど健康で憩いのある生活圏づくりを推進していきます。



郷土の文化

郷土資料館

歴史を受け継ぐ



今春のオープンを目指して、登別市郷土資料館の建設が今、着々と進められています。

建設場所は片倉町六丁目の幌別ダムの下側、現在計画されている幌別ダム下総合公園の一角で、総工費は一億円です。

資料館は鉄筋コンクリート三階建て。登別市の開拓使、片倉藩の白石城をモデルにしたお城で、一階三百八十五平方尺、二階九十平方尺、三階四十二平方尺となっています。

計画されている展示内容は、教

たゆまなく続く 生活環境づくり



地域住民の永年の要望であった富士町の大排水路を北海道とともに、年次計画で昭和55年度より整備を進めています。また、上覧別富岸川の河川改修工事も継続事業で行ない、昭和46年度に着工し、昭和55年度で完成します。昭和46年このように生活環境整備は、逐次進められています。

下：富士町大排水路改修事業
右：上覧別富岸川河川改修事業



育的配慮を加え、郷土の歴史、産文学博士となり北大教授、東大講業、民俗、自然科学などの資料を師などを歴任、「分類アイヌ語辞典」など数多くの著作を行ない、立図書館に展示、収蔵されている世界的な評価を得ています。

また、金成マツ氏（一八七五—一九六一）は幌別に生まれ、知里真志保氏の叔母にあたり、ユートカ（アイヌ英雄叙事詩）伝承で知られ、昭和三十一年には無形文化

先人の歩み一堂に

また、この資料館に特色をもたせるため、登別市出身の言語学者知里真志保氏や、ユートカの伝承者金成マツ氏（いずれも故人）などの資料も整備する計画です。

知里真志保氏（一九〇九—一九六一）は登別に生まれ、登別小六（一年）は登別に生まれ、東大に進み旧制室蘭中から一高、東大に進む

- ◎大昔のくらし―埋蔵文化財、パノラマ、写真など
- ◎移住民のくらし―人々のくらし（林業、農業、鉱業、幌別鉱山）
- ◎豊かな自然―市内の動植物、樹木、鳥獣類の標本など
- ◎体験広場―生活風俗展示、子ども体験学習を実施
- ◎登別の未来―総合計画にもとづくパノラマ
- △二階▽
 - ◎片倉家の人々―移住経路、古文書、よらい、写真など
 - ◎教育の移り変わり―教科書、教材
 - ◎知里氏・金成氏関係の文献など
- △三階▽
 - ◎展望台となり、お城、からの展望が楽しめます。

随想

幸福感の再認識

森 義 紀



一九八一年の新春を迎え、心から御祝詞を申し上げます。新しい年を迎えるたびに、人はみな、今年こそは、〇〇をはじめよう、××を実行しようと、心に誓い気負うのが常らしい。

暮れの十二月中旬の日曜日、私は、難病患者、身障者と共に、チャリテイパーティーに出席させていただいた。

がしかし、大体において、如何なる計画も、年末くらい、或いはせい一杯、正月の一週間か十日間で挫折し、忘れてしまいか、または決意が鈍って、御破算になってしまう。

今年が二回目ということ、昨年より盛況だとの由、また、主催側役員の方々と、いろいろなお話をし、痛感したこと、行政の面からの助成や補助金の額が本

助役さんを本部長として、登別市国際障害者年推進本部が設置された、社会福祉協議会でも、道段階での大きな事業をはじめとして各単位協議会で、それぞれ企画が進んでいる状況である。

財政窮乏の折、国や地方自治体も一部福祉の切捨てとも思える予算に止まっている中で、なおさらこの様な組織の先行きに杞憂を覚えるのは、私だけではあるまい。



執筆者紹介 森 義 紀 氏

昭和三年九月二十六日、樺太豊原市生まれ、現在五十二歳。主な経歴は、海軍予科練習生で終戦復員後、樺太からの引揚者の父母と昭和22年、日高静内町で合流再会、昭和25年8月幌別町に居を移し、爾来三十一年精肉店経営の父を手伝い一時(27年)上京、証券会社に入社、37年精肉店経営に携わる。

新しく迎えた昭和五十六年、今一度自分達の生活と、心身にハンディキャップをもたされた人々との暮しぶりを、よく考え直してみ

昭和六十五年以降、すなわち今から十数年たつと、高齢化社会が進んで、福祉に要する費用が莫大になる

昭和50年は婦人年、54年は児童年であった。そして、今年是一年間、障害者年であってほしいし、福祉のニーズは、その様な方向に多岐多様化して行くであろうことが、確

することもありなく、安易に、そのせいたくさに溺れてしまっている様な気がしてならないのである。

耐え難きを耐え、忍び難きを忍んで過した、私たちの青春時代と現在を、比ぶべくもないが、国際的視点でランクづけると、私たちは日本人の生活レベルは、上位には

お年玉つき年賀はがきの抽せんは、1月15日に行なわれます。当選番号は、全国の郵便局の窓口に掲示されます。お年玉賞品の引換期間は、1月20日から7月20日までとなっておりますので、お近くの郵便局でお早めにお受けとりください。

母子、父子家庭の実態を見るにつけ、聞かされるにつけ、本当に私たちは、不平不満などせたくは言って居られないと、つくづく思うのである。

郵便局からの お知らせ 年賀状で住所録の整理を... お正月に受け取った年賀状で住所録の整理をしましょう

お年玉賞品などについて詳しくお知りになりたい方は、郵便局の窓口でお尋ねください。なお、三等と四等のお年玉賞品は、御希望があれば、年賀はがきのくじ番号印刷部分を切り取らないで、受領証によってお渡しすることもできます。

郷土史探訪

登別地方の昔のお正月

今でもお正月には、しめなわや鏡餅を飾ったり、神や仏にお詣りする習慣なども残っていますが、昔と異って信仰上の意味が次第に失われ、ただ新しい年を迎えて今年も家内安全・無病息災である事のお祝いをするという気持ちの方が一般的に強いです。

登別地方の昔のお正月について常盤町三丁目に住む、山本ミツさん（八十八歳）は、昔の人達の、お正月に対する考え方を次のようにお話ししてくれました。

「お正月というのは、年神様をお迎えする祭り事ですから家のまわり、家の中の汚れをおとしてきれいにし、飾り物や供え物をしてお迎えする。年神様がお帰りにな

る一月七日には、正月送り、もしたものです。

それに一月十五日は小正月と言いい、女の正月ともいって、働きにきている女の人は自分の家へ帰ることができたし、嫁さんは里帰りの出来る日でした。登別地方の正月は、今の新正月でなく、旧正月に行なった家が多かったですよ。」

という話でとにかく、お正月は年神様をお迎えする家庭的なおまつりという考えが強かったようです。また、年神様を迎える為の準備としてほとんどの家で餅をつき、鏡餅をつくって神棚などに供えま

す。現在の家庭では機械によって餅をつくり、こしきで米を蒸し、臼に入れて杵でつく、と

いう餅つきの風景も次第に見られなくなりましたが、昔はどここの家でも、臼と杵があつて

二十九日の「クモチ」以外の日を選んで餅をつきました。

そして、大晦日を迎えますがこの大晦日の神への食事を、御節句の略で御節（おせち）、年取りと称して神にお祭りした後に食べます。現代は年神を迎えるという家庭の儀式的考えよりも、無事過ぎた一年の反省や慰労と



江差しもちつきばやしに合せ、餅をつく園児たち（若草幼稚園）

新年の健康・幸福や家

の繁栄を祈りながら、大晦日の前に、年取りを行なう家庭も多く、中には年末・年始は温泉でという現代的なものもあります。年越しそばは、細く長く生きるようにといううらみです。

正月を迎えると「若水くみ」が行なわれます。昔は井戸水や湧き水をくむ為に桶や柄杓はできたら新しいものを使い、手の所は奉書紙を巻いて紅白の水引きで結び、井戸や泉の中に米をまいて清めました。井戸から汲んだ水は、まず茶碗に入れて神に供えられ、家族の者は盃で一杯ずつ吞んで残った水は雑煮などに使用し、決して粗末にならぬようにしたといわれます。これら正月のための飾りものや供え物をつくり、餅つき、若水くみなどは、一家の主人が行なう事となっていたと聞いてやはり正月が年神まつりである事が分ります。

元朝詣りは、明治四年の建設で大正十一年まで豊別町一丁目にあった刈田神社や安政期の創建と伝えられる湯沢神社・登別神社、明治三十三年の蟹別神社の他に富岸神社、富浦神社など、それぞれの部落にある神社に、早朝からお詣りされ米や餅・酒などが供えられました。

また正月は仕事を休んで祝うものですが、一年の輪廻が正月にあるとか、目出たい日は仕事が順調にすすむという考え方から、浜の漁師の人達は「船おこし」とか「乗りぞめ」といって魚のまねごとをしたり、農家では藁ぞうりを一足作ったり、商人は店開き、蔵開きという初売りをし一番最初に買物に来た客には米一俵（六十キロ）・醤油の樽入りを祝儀に出したので暗いうちから、店の前に並んでにぎわったようです。

登別市郷土文化研究会 宮武記

公民館講座

市教育委員会では、資源を再利用しようとリフォーム教室を開きます。

みなさんのところにすでに着れなくなった服やタンスの奥にしまわれていた服は、ありませんか。

リフォームは、生活の見直しです。着れなくなった衣服を利用して、今の時代に合った子供服などに作り直してみませんか。

日時 2月2・9・16・23・25日の5日間いずれも10時から12時まで

場所 中央公民館

各自用意するもの
洋裁用具・ハサミ・物さし・リフォームするもの2・3点

●受講料 無料
●定員 30名
●講師 吹越愛子さん

祭用教室
ひな祭
市教育委員会では、「ひな祭用和紙人形教室」を、次のとおりひなまつり教室を開きます。

市教育委員会では、「ひな祭用和紙人形教室」を、次のとおりひなまつり教室を開きます。

●各自持参する物 ものさし・はさみ・木工用ボンド・白黒糸・めうち・筆記用具
●講師 永森敬子さん
●申し込み先 市教育委員会社会教育課（電話5局2111 内線349）

●登別婦人センター 2月3・4・5日 定員20名
●登別温泉公民館 2月6・9日 定員20名
●ひまわり園 2月10・12・13日 定員20名
●登別公民館 2月16・18日 定員20名
●富浦婦人研修の家 2月24・25日 定員20名
●時間 六会場とも午前10時から12時まで
●受講料 無料
●教材費 二千円以内
●各自持参する物 ものさし・はさみ・木工用ボンド・白黒糸・めうち・筆記用具
●講師 永森敬子さん
●申し込み先 市教育委員会社会教育課（電話5局2111 内線349）

年末調整の書類提出はお早めに

各事業主は、従業員の年末調整（昭和55年分）を行い、一月末までに市税務部市民税係に提出したくことになっておりますが、調整事務はお済みでしょうか。提出の際は、次の事に留意ください。

所得税の還付申告は

お早めに（室蘭税務署）

昭和55年分の所得税の確定申告と納税の期間は、2月16日から3月16日までです。源泉徴収された税金や予定納税した税金が、納め過ぎになっている方は、確定申告をしますと、税金の還付を受けることができます。この場合の確定申告は一月から受付けています。特に次のような方は、税金が納め過ぎになっていないかどうかを必ず記入してください。

- サラリーマンで、雑損控除や医療費控除、住宅取得控除などを受けることができる人。
- サラリーマンで、年途中で退職し、その後就職しなかったため年末調整を受けなかった人。
- 税務所では、申告のしかたなどについて、いつでも相談に応じています。この確定申告を早くしますと、税金の還付も早く受けられますので、早めに申告しましょう。また、本年から還付される金額はすべて銀行預金口座へ振り込みすることが出来ます。（従来は、三万円以上の制限がありました）
- 確定申告書に振り込み希望する銀行名、預金の種類と口座番号を必ず記入してください。

昭和54年度

水道事業会計決算状況

昭和54年度の水道事業会計の概況を次の通りお知らせします。

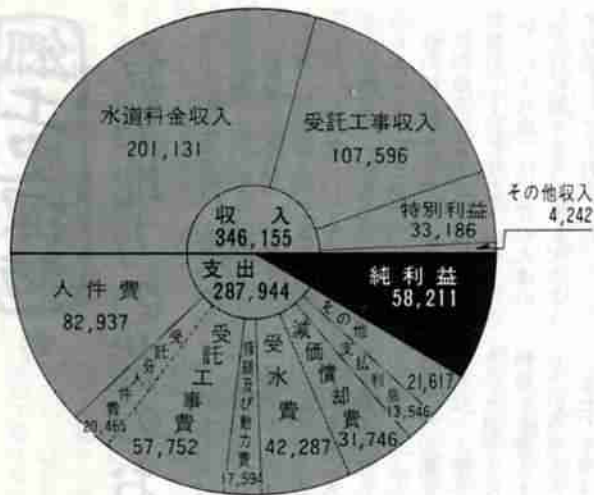
△給水状況

登別市の給水人口は、五万一千四百六十五人となり年間配水量も四百六十三万一千三百八十三立方メートルと前年に比べ、九万六千九百九十二立方メートル増となりました。皆さんが、一日に使用した量は、一人平均百八十三立方メートル、八百万円を投じて給水区域内の水需要の確保に努めました。また皆さま

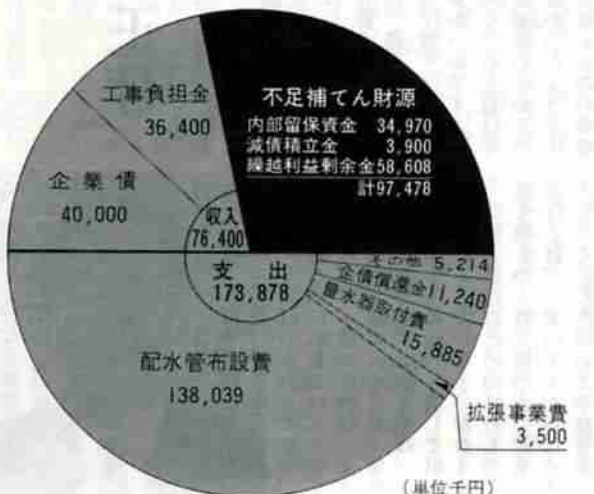
△収支状況

54年度は、水道料金その他の収入によって、五千八百万円の純利益を上げることができましたが、この利益は、配水管の新設、老朽管の改良、水道メーターの取替などの建設事業費の不足分として補いました。この事業の中で、配水管の布設工事関係には、一億三千八百万円を投じて給水区域内の水需要の確保に努めました。また皆さま

営業的収支グラフ



施設・設備的収支グラフ



(単位千円)

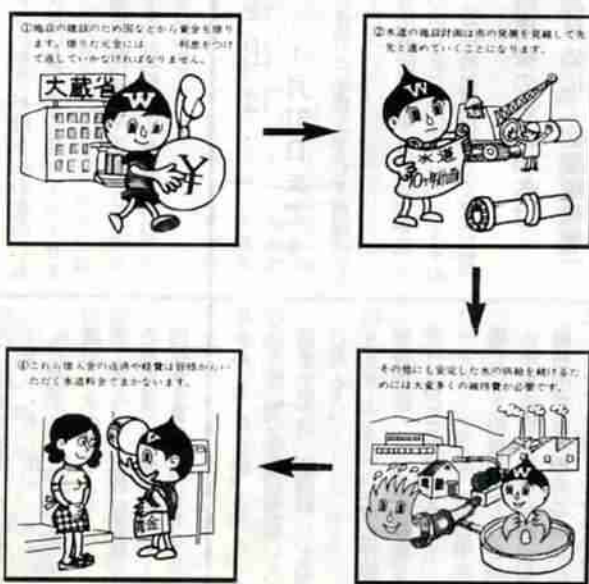
給水状況

年度	配水量 (m ³)	給水量 (m ³)	有収率 (%)	給水収益 (円)	供給単価 (円)	給水原価 (円)	給水区域 内人口(人)	給水人口 (人)	普及率 (%)
53	4,535,191	3,356,675	74.01	197,147,488	58.732	54.421	53,901	50,153	93.05
54	4,631,383	3,441,029	74.30	201,130,952	58.450	60.948	55,318	51,465	93.03
差	96,192	84,354	0.29	3,983,464	△ 0.282	6.527	1,417	1,312	△ 0.02

くらしと水道

水は一日でも欠かせないもの。健康と同じように失ったときはつきりません。水道部では、清浄・豊富・低廉をモットーにさらに安定供給を目ざし、皆様の快適で豊かな暮らしに少しでも役立つことを願っています。

水道事業の経営の仕組みについてお知らせします。水道事業は料金収入でまかなわれます。事業の経営は法律により独立採算制を採用することが決められています。必要な経費は水道料金でまかなう原則です。



水道の凍結に注意ください

凍結を防止するために、次のことを必ず実行しましょう。
 ● 空き家、空室の水栓、屋外散水栓の水を必ず落しておきましょう。
 ● 量水器のます内に断熱材(新聞紙等でも良い)を入れ、ふたを完全におきましょう。
 台所、洗面所、浴室などは就寝前(寒さが特に厳しい時は昼間でも)必ず水を落しましょう。

成人式のご案内

一月十五日は成人の日です。登別市では、新成人として巣立つ若人の将来を祝って登別市中央公民館で次のとおり式典を行いますので該当者はご出席ください。なお、案内状は年賀状として送付していますが、届いていない方は、教育委員会、社会教育課（電話5局2111内線350）へご連絡ください。

●成人式日程

日時 1月15日

受付 午前10時30分、午前11時、11時30分

式典 午前11時～11時30分

場所 登別市中央公民館
対象 昭和35年4月2日、昭和36年4月1日までに生まれた方。

※記念品を用意していますのでご出席ください。
※当日案内状をご持参ください。
※当日中央公民館前駐車場の利用はできません。

※当日送迎バスを次のとおり運行しますのでご利用ください。

＜成人式バス運行時刻表＞

登別市	10:05	登別市	10:05
大谷	10:10	大谷	10:10
高岸	10:15	高岸	10:15
千代	10:20	千代	10:20
阿部	10:25	阿部	10:25
木部	10:30	木部	10:30
木部	10:35	木部	10:35
木部	10:40	木部	10:40
木部	10:45	木部	10:45
木部	10:50	木部	10:50
木部	10:55	木部	10:55
木部	11:00	木部	11:00
木部	11:05	木部	11:05
木部	11:10	木部	11:10
木部	11:15	木部	11:15
木部	11:20	木部	11:20
木部	11:25	木部	11:25
木部	11:30	木部	11:30
木部	11:35	木部	11:35
木部	11:40	木部	11:40
木部	11:45	木部	11:45
木部	11:50	木部	11:50
木部	11:55	木部	11:55
木部	12:00	木部	12:00

成人式記念献血のお知らせ

登別市と登別市献血推進協議会では、今年成人になられる若人を対象に「はたちの献血」を行います。大人に仲間入りするこの日の思い出し「愛の献血」にご参加、ご協力をお願いします。

●日時 1月15日（成人式当日）
●場所 中央公民館

保育所入所 児童募集

昭和56年度市立保育所の入所児童を募集します。

●申請書交付・受付期間・場所

1月7日～1月17日・市幼児保育課及び各支所

●入所資格
満3歳以上（富士・鷺別・栄町・幌別東・桜木保育所は生後6ヶ月以上）で、母親が昼間家庭外で仕事をしたり、家庭内で子供と離れ

保育所別募集児童数

保育所名	募集児童数
富士保	120
士別保	120
幌別保	120
栄町保	120
桜木保	60
登別保	60
美園保	60
登別保	60
温床保	60
富浦保	30

て家事以外の仕事をするため保育できない家庭、母親のいない家庭、母親の出産、病気で保育のできない家庭などの児童が対象となります。

定例相談日にはかにも、常時相談窓口を設置していますのでお気軽にご相談ください。

●相談日・場所
毎日午前9時から午後3時まで（祝日・日・土曜日を除く）

●福祉事務所市民相談室（担当相談員が面接にあたります）

●毎月定例第3木曜日・午後1時から3時まで（1月は16日・金曜日に変更）

家庭児童・母子相談

●中央公民館和室（室蘭児童相談所員による定例相談）

●相談内容
しつけ相談・自閉症相談・養護保健相談・非行・登校拒否・心身障害・ことばの障害・児童施設入所・視聴覚障害・母のなやみこと・その他

●お問い合わせ先 市民相談室（電話5局2111内線326）

建設工事等の入札参加資格審査申請の受付

市では、昭和五十六年度の建設工事、設計、測量などの入札参加を希望する業者の資格審査の申請を次により受付します。

- 提出期間
第一次 56年1月20日、2月28日
第二次 56年4月20日、5月20日
- 提出先
市総務部契約管財課契約係
- 提出書類
①建設工事入札参加資格審査申請書②許可（登録）証明書または許可通知書（写）③代表者身元証明書（個人営業のみ）④営業所一覧表⑤工事経歴書⑥納税証明書（市税、道税、国税ともに必要）⑦主要取引金融機関一覧表⑧経営事項審査申請書（写）⑨技術者名簿⑩登記簿謄本（法人のみ）⑪建設工事または設計、測量等入札参加資格審査申請書付票⑫建設業退職金共済組合加入証明書（写）
- 記載要領
社団法人北海道土木協会発行の「指名願いの書き方と申請の手引」による。

不用品ダイヤル市

電話 5局2111
内線 257

おわけします（売り）
歩行器、ベビーベッド、ホンダモンキー（50CC）、電気オルガン、小型冷蔵庫、電気スタンド、スピードスケート（23・25cm）

冬の交通事故防止



●シートベルトを着用しよう。
○冬の積雪・凍結路面では、タイヤが滑りやすく、事故発生の危険性が增大します。万一の事故に備えてシートベルトを着用しましょう。

車両の早め点灯運動

この運動は、薄暮時において交通事故が多発していることから、車両の前照灯を早めに点灯することによって、他の車両や歩行者に注意させること、自らの安全意識を高め、薄暮時における交通事故防止をはかることです。

●実施期間
昭和55年12月1日から昭和56年2月末日まで。

●内容
○点灯対象は全車両とする。
○点灯時間は日没のおおむね30分前からとする。
○点灯は前照灯の下向き（近目）とする。

美術協会公募展

多数のご応募を

登別美術協会では、一月三十日（金）から二月一日（日）までの三日間、中央公民館で開催する「第二回登別美術協会公募展」の出品作品を募集します。

募集要領は、次の通りです。多数ご応募ください。

1月30日～2月1日

●種別：油絵、水彩、版画、彫塑、工芸。

●大きさ・出品点数：制限なし。

●応募資格：高校生以上の方ならどなたでも応募できます。

●作品搬入：昭和56年1月25日（日）午後9時～12時（中央公民館一号和室）

●会場：中央公民館二階（中央町六丁目十一番地市役所裏）

●問い合わせ先：美術協会事務局（六戸輝夫宅、電話65127）までどうぞ。

●展覧会：昭和56年1月30日（金）から2月1日（日）まで三日間。時間は9時～17時（30日は午後一時から、一日は午後三時三十分まで）

健康ガイド



3歳児健康診査

医師、歯科医師、保健婦、栄養士による3歳児健康診査を次により実施いたしますので、対象者はもれなく受診してください。

●内容
心身の発育状況、歯科検診、栄養指導、生活指導
●対象児
昭和52年9月1日から昭和53年1月31日までの出生児及び前回(昭和52年2月1日から8月31日までの出生児)を受診していない幼児(但し満四歳児を除く)
●母子健康手帳を持参ください
●当日、尿検査がありますので会場までさせていただきます。

市民移動健康教室を開催します

「わたしは健康です!!」
あなたは自信をもってこう
言いきれますか?

健康は、もともと自分自身で守らなければならないものですが、私たちがとりまく生活環境の変化は、生活様式や食生活にも影響を与え、自分で自分の健康を保持、増進させることを非常に難しくしています。

そして、日常生活のリズムや適正な食生活を欠くことにより、成人病疾患の増加や、肥満・貧血・高血圧・心臓病・糖尿病などの慢性疾患がいちじるしく増加する傾向にあるのです。

そこで、室蘭市医師会では、室蘭市・登別市、室蘭保健所と共に市民の皆さんが「医師に上手にか

かるにはどうしたらよいか」とか「家庭でできる健康づくり」「病気を正しく理解するには」といった病気や、健康に関する移動健康教室を開設することになりました。

で、一人でも多くの市民がこの教室に参加し、自分の健康について考えていただくと共に病気についての正しい理解をしていただきたいと思います。

●日時 昭和56年1月22日(木)午後6時
●場所 中央公民館二階ホール
●お話の内容
家庭の健康管理・肝臓を中心として
●講師 市立室蘭総合病院院長 安斎哲郎先生

なお、この健康教室では、医療に関する各種の相談も受け付けいたします。

健康相談

●実施日
2月2日：登別公民館
2月10日：登別公民館
2月12日：労働福祉センター

●受付時間
午前：10時～10時30分
午後：1時～1時30分

●内容
午前：成人病相談、妊婦相談、家族計画相談、幼児相談(1歳以上)、赤ちゃん相談(1歳未満、但し7ヶ月児を除く)。
午後：7ヶ月児相談(昭和55年7月出生児)

●但し、登別公民館での健康相談は、午前部のみのです。

●心臓、じん臓、肝臓の病気にかかっている人。
●アレルギー体質または、副反応を起こしたことがある人。
●接種前一年以内にけいれんの症状を起こしたことがある人。
●種痘、BCG、はしか、ポリオ風しんの予防接種を受けて一カ月を過ぎていない人。
●風しん、はしか、水ぼうそう、おたふくかぜが治って一カ月を過ぎていない人。

●対象者
三種混合：生後24カ月から生後48カ月未満の人
ツベルクリン反応：生後3ヶ月から48ヶ月未満の未接種者。
BCG：ツベルクリン反応が陰性だった人。

●接種上の注意
●母子健康手帳を持参すること。
●接種前日は入浴し、当日は清潔な肌着を着用すること。
●体温は必ず家で計ってくること。
●子供の健康状態の良好な時に接種すること。
●接種前後に激しい運動をさせないこと。
●できるだけ母親が付き添うこと。
●次に該当する場合は、予防接種を受けることができません。
●発熱している人または、著しい栄養障害者。

予防接種

●接種上の注意

●接種前日は入浴し、当日は清潔な肌着を着用すること。
●体温は必ず家で計ってくること。
●子供の健康状態の良好な時に接種すること。
●接種前後に激しい運動をさせないこと。
●できるだけ母親が付き添うこと。
●次に該当する場合は、予防接種を受けることができません。
●発熱している人または、著しい栄養障害者。

会場	時間	予 防 接 種 名		
		三種混合	ツベルクリン反応	B C G
ひまわり園	13:00~13:30	1月23日	1月28日	1月30日
登別公民館	13:45~14:15	1月23日	1月28日	1月30日
富浜児童館	13:00~13:30	2月4日	2月18日	2月20日
登別公民館	13:00~13:30	1月23日	1月20日	1月22日
登別温泉公民館	14:00~14:30	2月4日	2月18日	2月20日
中央公民館	13:00~13:30	1月8日	1月21日	1月23日
		1月29日		
商工會館	13:00~13:30	1月22日	2月17日	2月19日
		2月26日		

コース	日 程				
	1	2	3	4	5
会場	2月9日 中央公民館	2月13日 中央公民館	2月16日 中央公民館	2月20日 中央公民館	2月23日 中央公民館
時間	13:00	13:00	13:00	13:00	13:00
担当	産婦人科医	小児科医	助産婦	産科医	保健婦
内 容	妊娠中の生理と分娩経過	新生児の発育と育児	赤ん坊のお世話と生活計画	妊娠中の生活と胎動	妊娠中の生活と胎動
	妊娠中の健康(映画)	妊娠中の生活と胎動	妊娠中の生活と胎動	妊娠中の生活と胎動	妊娠中の生活と胎動

母親学級

妊娠中の方、安心して
お母さんとなるための
準備はできましたか。

母親となられる方のために、妊娠の生理、分娩の経過、妊娠中の栄養、新生児の発育、産後の生活など内容を五回にわたって講話、実習を行い、妊娠にともなう不安の解消、出産に向けての心身、物品の準備のお手伝いをします。
受講希望者は、早めにお申し込みください。
なお、受講対象者は、5日間(1コース)受講できる妊婦の方です。
●定員 20名
●申し込み先 市保健衛生課(電話5局2111内線250)

無料法律相談



●日時 二月七日(土)
午前九時～十二時
●場所 中央公民館 和室
▽担当弁護士 村上 弘氏 芝垣 美男氏
●ご相談を希望される方は、あらかじめ公聴広報課に申込みください(電話5局2111内線222)
●寄贈ありがとうございます
●ごさいます(敬称略)
●社会福祉協議会(愛情銀行へ)
●現金寄贈
長谷川志ま・緑寿会・荒川淑人
山口建設・西田哲治・山本医院
●物品寄贈
●消費消費者協会・幌別第八町内会婦人部・和裁サークル小抽会
●匿名一件
●古切手寄贈
藤原勇造・中村薬局・緑寿会・登別大谷高等学校・山本商店・木村ノブ・給食センター・福島千代美
●市民会館建設資金として
赤塚博